

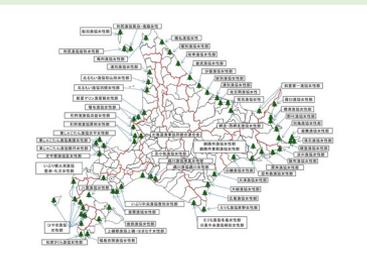
事業名 お魚を殖やす植樹活動・魚つきの森づくり 緑の回廊づくり

事業の概要



コンブ漁などの沿岸漁業が盛んな浜中町では、「お魚を殖やす植樹運動」に取り組んでいる。森は、雨水を受け止め浄化し川に流す。豊かな海を守るには森を整備することが重要。最初は漁協女性部独自の活動からスタートした取組が、町民運動へと発展し、JAも構成員となる「浜中町北の魚つきの森推進協議会」の設立までに至った。町民とともに、「浜中町植樹祭」(町共催)で約800本/年を植樹し、森を守っている。

背景・経緯



「お魚を殖やす植樹運動」は、昭和63年に北海道漁協婦人部連絡協議会(=現女性部連絡協議会)が始めた植樹運動で、今や道内のほとんどの漁協女性部で取り組まれている。一次産業の農業(酪農専業)と漁協を基幹産業とする浜中町でも、時を同じくして植樹活動がスタート。植樹とともに、下草刈り、枝払いの作業も地域で行い、豊かな森を育てている。この活動は全道15か所のうちの一つとして「北の魚つきの森」として道より認定を受けた。(北海道ぎよれんHPより)

事業の効果



森から海へ、そして再び森へ。自然の大きな循環とともに…。安全で安心な水産物を私たちにもたらすその海は、北海道の豊かな森が育てています。漁業関係者、農業関係者、消費者団体などが連携・協働して植樹保育活動に取り組み、北海道の森と海をさらに豊かに育て、安全・安心な食の環境を守ります。それが、漁業と農業、さらに消費者が連携して進める「お魚殖やす植樹運動」です。(北海道ぎよれんHPより)

平成30年度末累計 1,168,535本(道内)が植えられている

連携する組織等



魚を殖やしたいという願いで取り組んできたこの運動は、環境問題という新たなテーマへと拡大・発展し、地域の人々や子供達も参加する活動へ。さらに、農業関係者や消費者団体とも連携・協働し、「安全で安心な食の環境」を守る取組みへと、その輪を大きく広げている。

事業のポイント

事業連携による効果

植樹活動は森林組合からの苗木提供や釧路森づくりセンターからの植樹指導を受け実施。JAは山(林業)と海(漁業)をつなぐ重要な役割を果たし、近年はJA組合員の土地を借りて育苗するなど、組合員レベルでの交流が進む。

付加価値としての環境政策

景観保全、環境に優しい町づくりに加え、エコの町・クリーンな町として付加価値をつけることを目指し、平成22年に「浜中町環境基本計画」を作成。環境の保全および創造に関する施策を推進している。

将来性・発展的展開



環境保全で農林業のイメージ向上
当JA事業の中心である酪農の経営規模拡大は、樹木の伐採、採草放牧地の造成を伴い、「酪農は川を汚す」という環境に悪い印象があった。これを受け、農業のイメージアップ、環境保全と美化に取り組むため、上流と下流、陸と海、酪農と漁業をつなぐ「緑の回廊づくり・ピオトープ構想」を打ち出した。豊かな自然環境を取り戻す活動は「安心・安全の証」として消費者理解を得て、さらなる域内連携へ飛躍。